

心をつなぐ読書活動

園長 福 理奈

前園長 堀口 なり子

社会福祉法人 槌橋保育園

- 設立：昭和39年（創立60年）
- 法人：社会福祉法人槌橋保育園
- 施設：幼保連携型認定こども園（定員85名）
（本園）つちはしこども学園
（分園）花のおさなご園
- 所在地：鹿児島県指宿市岩本（今和泉地区）



篤姫ゆかりの地として知られる今和泉島津家別邸跡地に隣接しています。海岸沿いには当時を忍ばせる石垣や松林が広がり、今も観光客が多く訪れています。

設立にあたっては、槌橋秀彦氏（指宿市出身）から寄付金をいただき、園舎の建設や、保育材料の購入等 開園に必要な資金に充てました。残念ながら開園を迎える前に槌橋さんは亡くなりましたが、槌橋さんのお名前をいただいて『槌橋保育園』としました。

親子読書会

- 発会：昭和42年6月
- 経緯：初代園長堀口盛太郎と椋鳩十先生の繋がり
『幼児に本を読んであげましょう』
県立図書館の巡回図書を活用して家庭へ絵本を

↓
「子どもの数だけ本が欲しい！」

寄贈本・善意銀行の資金を元に書籍購入



S47年 書預託貸出制度スタート
園長が自費で図書館を建設



親子読書会の一番のねらいは、『親子の心の交流』

親子読書会の主な活動内容

- ① 親子で絵本を読むこと
（乳幼児の場合、大人が子どもに絵本を読んでやり、子どもはそれを見て聞くという活動）
- ② 毎月 読書会だよりを発行
園での読み聞かせの様子、読んであげたい絵本の紹介などを行っています。
- ③ 親子読書会誌「ちねっ」の発行
1年間の親子読書会活動を通して感じたこと、お子さんの成長の様子や喜びなどを綴る文集です。
- ④ 親子絵本づくり
読書週間の時期に、子どもたちが描いた絵にそってお話づくりをして、世界に1冊しかない絵本を作ります。



親子読書会の活動内容

【絵本の貸出】

毎週木曜日は絵本の貸出日。一人2冊まで。

登園時に親子で絵本を選びます。職員が貸出処理をした後に子どもが持ち帰り、各家庭で親子読書をした後に、読書帳へ一口感想文の記入をお願いしています。

保育教諭の返事や励まし、助言なども記入できるようにしてあり、家庭とこども園をつなぐ役割も果たしています。保育教諭は指導的になるのではなく、一緒に読書活動を楽しみながら、井戸端会議をするように穏やかな気持ちで書こうと心掛けています。

現在、こども園には4000冊以上の絵本があります。

ちねつ

親子読書会誌の名に込めた思い

絵本を読んであげたから頭が良くなるとか、急に思いやりがある子になるなどという急激な変化はありません。でも、親から本を読んでもらった心の温もりは、子どもの心の底にそっと温められて残っているはず。それが少しずつぬくもりを増してきたら・・・、そこから芽が出て、そして双葉をのぞかせるでしょう。親から伝えられた、親が残した種は、ずっとずっと後に芽を出し、それがまた、その子供へと引き継がれていくのです。そんな思いから読書会誌は「ちねつ」と名付けられました。

春になって、地球が少しずつ温められ草木が伸びていくように、少しずつ温められた子ども達の思いが、どんどん大きくなっていく事を願い、現在もその思いを引き継ぎ「ちねつ」の発行を続けています。



親子読書会の活動内容

【親子手作り絵本】 ～ 世界に一冊だけの絵本～

子どもたちが表現する世界へ

毎年読書週間の頃に親子手作り絵本の製作を行っています。子どもたちが描いた絵に、親が言葉を添えて、最後に好きな模様の布や和紙などを使って製本し、世界に1冊しかない絵本の完成です。毎年1冊ずつ増えていくこの手作り絵本に、ご家族からのメッセージを添えて、子どもたちが中学生になる頃まで園で大切に保管しています。そして、子どもたちが立志書を迎えるクリスマスに子どもたちの手元に届きます。

心が揺れ動く思春期、この絵本は自分のために心をくだし、時間をかけてくれた人がいた証として、心の支えになってくれるよう願っています。

この絵本は、幼いときに親が子どもにいった目をかけ、心をかけ、手をかけた証です。

